

吸入ばく露については、健康リスクの判定はできなかったが、本物質の環境中への排出は水域のみで、その後も環境中でほとんどが水域に分配されると予測されているため、本物質の一般環境大気からのばく露による健康リスクの評価に向けて吸入ばく露の知見収集等を行う必要性は低いと考えられる。

ばく露経路	有害性の知見			ばく露評価		リスク評価の結果			判定
	リスク評価の指標	動物	影響評価指標(エンドポイント)	ばく露の媒体	予測最大ばく露量及び濃度	MOE			
経口	無毒性量等 10 mg/kg/day	ラット	ネフローゼ	飲料水・食物	— μg/kg/day	MOE	—	×	▲
				淡水・食物	6.8 μg/kg/day	MOE	29	▲	
吸入	無毒性量等 — mg/m ³	—	—	一般環境大気	— μg/m ³	MOE	—	×	×
				室内空気	— μg/m ³	MOE	—	×	×

4. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間 EC₅₀ 30,000 μg/L 超、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC₅₀ 106,815 μg/L、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の 96 時間 LC₅₀ 100,000 μg/L 超が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度(PNEC) 300μg/L が得られた。慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 300 μg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 30,000 μg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 値 3 μg/L が得られた。本物質の PNEC としては、藻類の慢性毒性値から得られた 3 μg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域で 40 となり、詳細な評価を行う候補と考えられる。

有害性評価 (PNECの根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (μg/L)	ばく露評価		PEC/ PNEC比	評価 結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (μg/L)		
藻類	慢性	NOEC 生長阻害	100	3	淡水	130	40	■
					海水	—	—	

5. 結論

	結論		判定
健康リスク	経口ばく露	情報収集に努める必要があると考えられる。	▲
	吸入ばく露	リスクの判定はできない。知見収集等を行う必要性は低いと考えられる。	×
生態リスク	詳細な評価を行う候補と考えられる。		■

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない